

ミュージアムにとってのジャパンサーチ

第一部 ジャパンサーチと連携するには

(2) 連携事例報告

「三重の歴史・文化デジタルアーカイブ」との連携について

三重県デジタル社会推進局デジタル事業推進課 匹田 賢嗣



この資料は、クリエイティブ・コモンズ表示4.0国際ライセンスの下に提供されています。



「三重の歴史・文化デジタルアーカイブ」構築の経緯

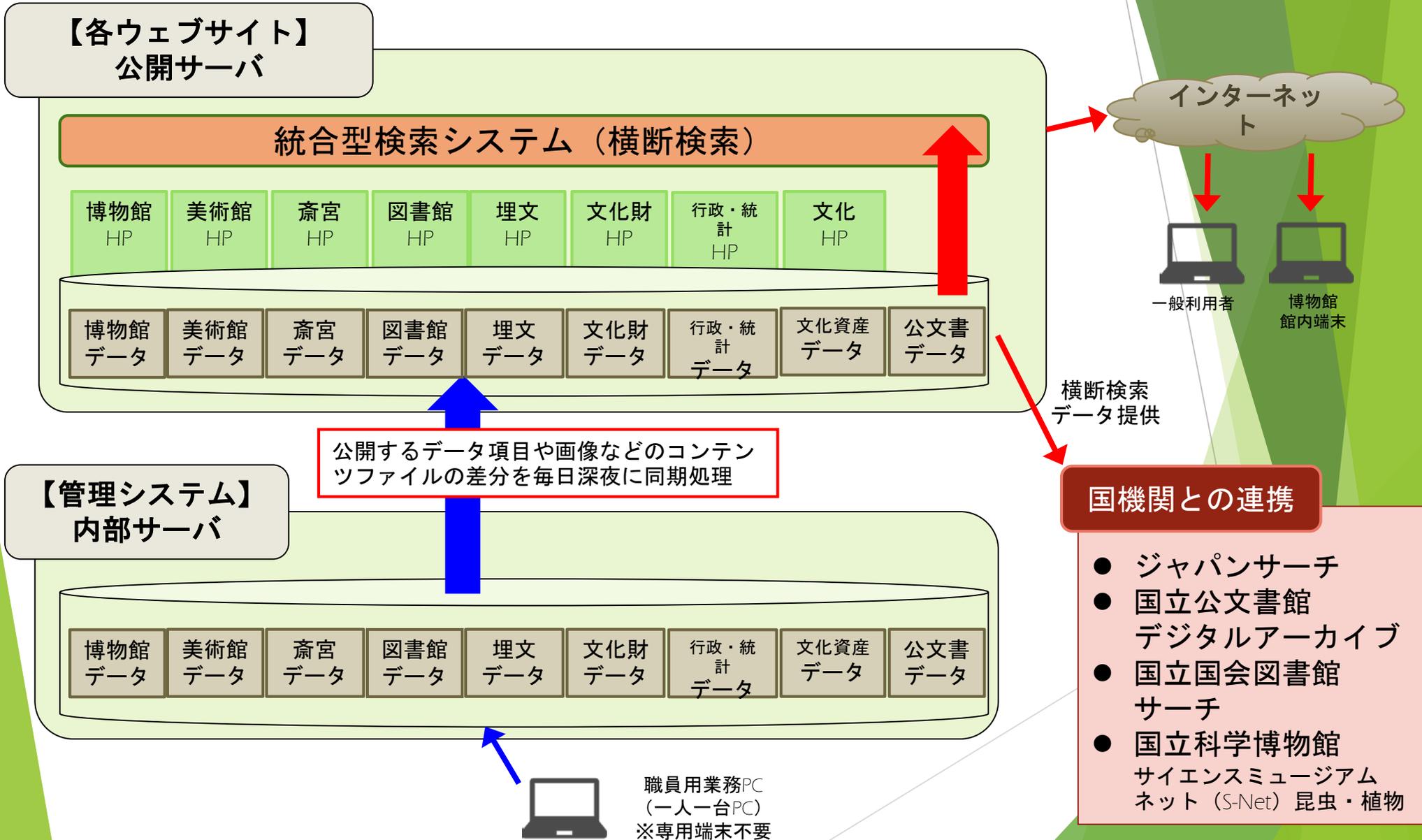
時 期	トピック
平成20年3月 (2008年3月)	「新県立博物館基本構想」で「県内の博物館や関係機関と、それぞれの収蔵資料のデータベースを共有できる体制の整備をめざす。」と示された。
平成20年度 (2008年度)	県庁内の「政策研究ワーキング」でデジタルアーカイブについて調査・研究。
平成20年度～ 23年度 (2008年度～ 2011年度)	緊急雇用創出事業や文化庁事業でデータ整備・資料のデジタル化を進める。 【21年度】 県内文化施設等の資料、歴史的公文書、行政・統計資料、文化財情報等をデータベース化し、管理するためのシステムを構築。 【22年度】 地域の文化資産をデータベース化し、管理するためのシステムを構築。
平成24年度～ (2012年度～)	統合型デジタルアーカイブを構築開始。 新県立博物館開館に向け、これまで整備したデータを集約し、一体的なデータベースシステムによる情報提供、外部機関との連携等を目的とする。
平成26年4月 (2014年4月)	三重県総合博物館開館。
平成26年5月 (2014年5月)	統合型デジタルアーカイブ「三重の歴史・文化デジタルアーカイブ」の運用開始。 キーワードを入力するだけで全資料の情報を一度に検索可能。
令和2年8月 (2020年8月)	「ジャパンサーチ」と連携。 ※令和元(2019)年12月に依頼



「ジャパンサーチ」との連携機関やデータベースの概要

所蔵機関	データベース名	公開資料件数
三重県総合博物館  	所蔵品（自然系）	40,453
	所蔵品（人文系）	63,754
	所蔵品（写真・映像）	509
	図書	3,466
	行政刊行物等	34,952
三重県立美術館 	所蔵品	5,857
	図書	101,331
斎宮歴史博物館 三重県立図書館  	所蔵品	364
	デジタルライブラリー	257
三重県埋蔵文化財センター 	所蔵品	105
	図書	859
三重県教育委員会事務局社会教育・文化財保護課	指定・登録文化財	1,197
三重県戦略企画部情報公開課	行政資料	2,253
三重県戦略企画部統計課	統計資料	8,144
三重県環境生活部文化振興課 	特定歴史公文書等	23,649
	県内の句碑	313
	地域文化資産	5,054
	まちかど博物館	444
	県内の博物館・資料館	205
2021年5月末現在	合計	293,166

「三重の歴史・文化デジタルアーカイブ」システム構成

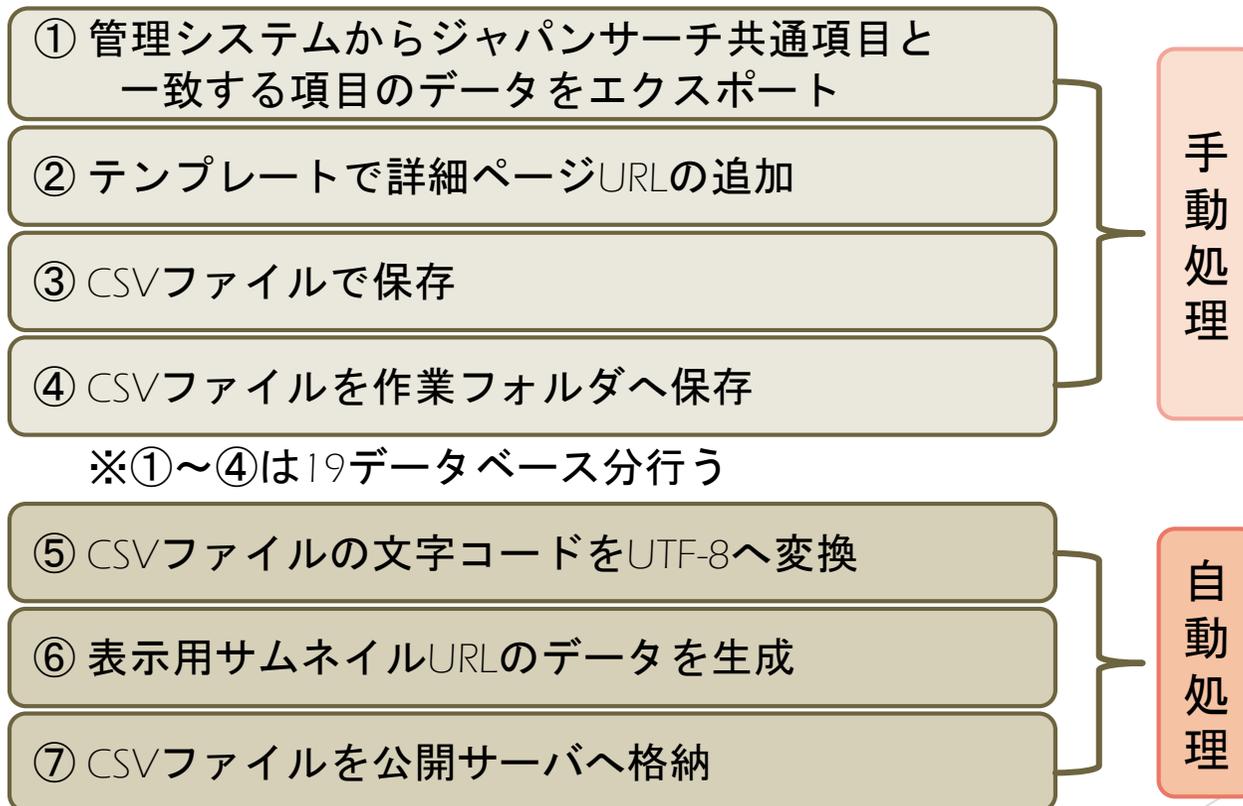




「ジャパンサーチ」との連携方法

- ジャパンサーチへのデータ連携は「HTTP」方式で毎月定期収集されるよう設定しています。
- 定期収集されるデータの生成は保守業者による作業として行われています。

【連携データ生成手順】



- ジャパンサーチのメタデータの制約が少なかったため、容易ではありましたが。
- データベースに個別詳細ページや表示用サムネイル画像のURL情報を有していなかったため、別途生成する仕組みが必要でした。

▶▶ 「ジャパンサーチ」との連携までの経緯

- 庁内各機関のデータの管理状況を調べると、エクセルやアクセス、ファイルメーカーなどの簡易データベースで管理し、一部の機関ではホームページを1ページずつ手作業で作成して公開し、検索機能は有していなかった。
- ワーキングやプロトタイプ構築を通じて、データベース管理の必要性、システム構築や運用にかかる、「人的」「金銭的」コスト、統合型システムにより共用（相乗り）することのメリットについての共通認識ができた。
- 統合型システムの構築を、博物館職員と連携しながら文化振興課職員が事務的作業を担ったことにより、全体的な調整を行い、客観的にシステム構築を行うことができた。
- 構築にあたり、庁内各機関のこれまでの業務や管理内容を最大限尊重しつつ、共通項目を設定するなど、統合型のメリットである、多様な情報からの横断検索が容易に実現できた。
- 統合型システムの構築により、予算確保、システム調達や契約、開発や運用、セキュリティ対策等についての作業は各機関の担当者が負担することなく、データ更新に集中できた。
- ジャパンサーチとの連携については、システム設計時から庁外他機関との連携を仕様に記載し、実際にいくつかの機関とは連携しており、さらに、新たな機関との連携があれば対応するというスタンスであったので、今回の連携についてはある意味では必然的であった。

「ジャパンサーチ」と連携して

- 試験版ではあるが統計情報を見ると意外な資料が上位にランキングされていて興味深い。今後、どのような経路やキーワードで検索されてきたかがデータとしてわかる機能が追加されるとよいと思う。
- SNSでシェアされていると嬉しい。
- エディター機能が盛りだくさんで使いこなせていないのが現状ではあるが、ギャラリーや検索機能を活用して、より利用者により便利に楽しくデータベースを活用してもらえ余地はある。
- メタデータやデジタルコンテンツの権利情報や二次利用条件については、オープンデータの利活用の面からできる部分から対応していくことも考える必要がある。
そのためには、職員間での共通認識や理解が必要となり、特にデジタルコンテンツについては、単に著作権の問題だけでなく、どのように利用されるかなどの運用についても検討する必要がある。
- いち利用者としては、早く多くの自治体とも連携して、本当の意味で日本全体の情報から横断検索できるようになると嬉しい。